

地域精神保健福祉コミュニティー誌

ぱる通信

Jul. 2014

No. 200

7

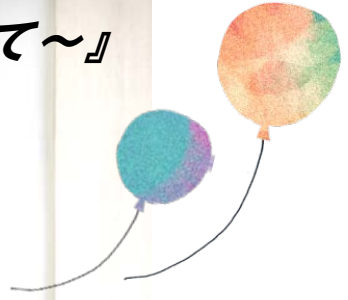
祝！200号

特集：『働いて元気になる！～IPS全国研修会in広島に参加して～』



特集：『働いて元気になる！』

～IPS全国研修会 in 広島に参加して～



二〇一四年六月七日、広島県で開催されたIPS全国研修会にあすなろスタッフ六名で参加してきました！あすなろ福祉会では以前からIPSモデルに基づく就労支援を行っていますが、改めてIPSモデルのメリットを整理し、今後の課題について検証していきたいと思います。

IPSとは

インディヴィジュアル プレイスメント アンド サポート
Individual Placement and Support の略で、個

別就労支援プログラムのことをいいます。一九九〇年代に米国で開発され、一般就労率の向上が立証されており、就労は治療的效果があり、ノーマライゼーションをもたらすといわれています。重い精神障がいのある人々が就労することによって、生活の自立度を高め、精神保健が提供するサービスへの依存を減らしていきます。自立度が高まるに従って、自尊心が高くなり、症状に対する理解が深まり、症状に対応でき、生活全般に満足感を覚えるようになります。つまり、働くことでリカバリーされていくのです。



IPS援助付き雇用の原則

- ① 症状が重いことを理由に就労支援の対象外としない
- ② 就労支援の専門家と医療保健の専門家でチームを作る
- ③ 職探しは、本人の興味や好みに基づく
- ④ 保護的就労ではなく、一般就労をゴールとする
- ⑤ 生活保護や障害年金などの経済的な相談に関するサービスを提供する
- ⑥ 働きたいと本人が希望したら、迅速に就労支援サービスを提供する

IPS援助付き雇用の根幹は、
「place-then-train..」

早く現場に出て仕事に慣れる」

であり、従来の

「train-then-place:

保護的な場で訓練する」

という職業リハビリテーションとは対極にあります。「できないこと」よりも「できること」に着目し、そして何より重い精神障がいがあっても**可能性を信じる**こと、**一緒に働けるという希望を持つ**ことが重視されます。

米国をはじめ、様々な国でIPS援助付き雇用についての研究がされていますが、それらの報告でもIPSモデルでの就労支援を行なうことで、①一般就労率が増加する、②費用効果につながる、③労働賃金が高い、④社会的機能

の改善、⑤病状の軽減、⑥高い自尊心をもてる、などの有効な成果が報告されています。

わが国においても、個別就労支援に関する無作為化比較対象研究が行われ、従来の施設トレーニング型就労支援と比べ、高い就労率（個別就労支援群：四十四％ VS 従来支援群：一〇％）が確認されています。

（http://www.centreformentalhealth.org.uk/pdfs/briefing37_Doing_what_works.pdf）

さて、この全国研修会ではIPS援助付き雇用積極的に取り組んでいる事業所の事例紹介など、IPS援助付き雇用の有効性や今後の課題等について挙げられました。そのいくつかを簡単に紹介したいと思います。

就労支援センター

FLaT(広島県)の取り組み

FLaTさんは個別支援による求職活動が中心で、個別面談、ハローワーク同行の他、応募書類の作成、面接同行、職場実習等の就職にまつわる動きの他、余暇活動を通して利用者さんとのフラットな関係と環境づくりをモットーにされています。その結果、昨年度の就労達成件数は二〇件以上と高い実績を挙げられています。

就労支援センター

そらいろ(京都府)の取り組み

そらいろさんではACT（包括型地域生活支援プログラム）に平成十六年から取り組まれています。ACTの枠組みの特徴としては、●多職種チームによるアプローチ●スタッフ全員で利用者の情報とケアを共有●柔軟なサービスの提供●サービスは生活の場●サービス期間は前もって定めず継続的に●二四時間三六五日の支援●ほとんどのサービスを責任を持って直接対応 等があります。その中でも今回着目したのは、「多職種チームによるアプローチ」つまり、「働きたい」という希望を持つ人に様々な立場の人がそれぞれの能力を最大限に出し合いながら支援していくというスタイルです。まさに「三人寄れば文殊の知恵」という諺通り、一人ひとりの力は小さくてもみんな協力してガッチリ支援していくという姿勢は、今後の就労支援の現場で求められています。

株式会社NSP

キングロング(沖縄県)の取り組み

株式会社NSPさんは、飲食店や外壁塗装などの事業を展開するナガイ産業さんが立ち上げた障害者雇用のプロジェクトで、障がいのあるに関わらず、「誰もが働きやすい」企業づく

りをモットーにされています。障がい特性に基づいた職業指導ではなく、その「人」や「個」を知ること、「雇用する」「雇用される」という双方の関係性ではない「共に働く」という同じ方向を向いた関係性の中で障害者雇用の新たな価値観を生み出そうとされています。働くこと自体がゴールではなく、その先にある豊かな人生に着目することは就労支援の原点だと改めて感じました。

その他、住吉偕成会（山梨県）、社会医療法人北斗会さわ病院（大阪府）、国立精神・神経医療研究センター（東京都）の方々の講義、そしてIPSモデルに基づき、place-then-trainを実践して就労し、生活保護から脱出された当事者の方の話を聞き、改めてリカバリー概念とIPS援助付き雇用の密接な関係を認識し、「働く」ことを通じて「人生の主人公は私」というごく当たり前の感覚を取り戻すことが大切だと思いました。

IPSの課題と今後の展望

まず、わが国においては従来型の支援、いわゆる職業リハビリテーションによる就労支援が一般的な障がい者の就労支援の概念としてとらえられ、支援者、家族、そして当事者本人

までもが「段階を踏んで」いかないと就労は不可能であると考えられている事です。確かに段階を踏んでひとつひとつの課題を克服していくことは間違いではありません。でも、その過程においては必ず「できないこと」に着目することになるので、就職活動は大変ストレスがかかってしまうのです。職業準備性が整っていないくても、援助付き雇用によって自立度や自尊心が高まるのが就職への近道となることを、もっと多くの人に知ってもらうことが第一の課題と思われます。また、従来型の支援では医療と福祉が個々にリハビリテーションを行なうことが多かったため、就労を目的とした包括的な支援の必要性が欠かせません。さらに、就職後のフォロー体制が整っているかどうかで離職率の増減に関わってきます。そのためには各関係機関が連携してサポートすることが重要であり、その点がIPS援助付き雇用の肝となる部分であり、きめ細かいフォローアップが支援者としての課題となるでしょう。

あすなる福祉会の就労支援においても同様で、利用者さんのニーズに即した職場や実習先の開拓が大きな課題です。職業リハビリテーションとは違うIPSモデルのメリットは、本人の希望に即した職場においての就労経験を積み、具体的な就労イメージを高めることにより職場定着を図ることにあります。その為には就

労希望が出た時にいかに迅速に対応できるか、本人のイメージにより近い協力機関をいかに多く持っているかがポイントになってきます。今後あすなる福祉会では「一人ひとりが主人公である人生の獲得」を目指して、個に応じた細やかな支援を目指して行きたいと思っています。

(大平)

参加した職員も元気をもらえました！



「希望」を持ってチャレンジできる場にしたい

今回の研修に参加させてもらったことは、私たちスタッフの役割を改めて見つめ直すとてもいい機会となりました。

参加されていた全国の事業所の方々の実践報告の内容で一貫していたことがあります。それは「本人の思いを一番大切にする姿勢」です。「地域で安心して暮らしたい」「社会を構成する一人として役割を持ちたい」「働いたお金で好きなものを買いたい」など、「夢」や「希望」を描き、実現させたいと願う気持ちは障がいのあるなしにかかわらず誰しもが持つ「自分らしく生きる」ための大切なエネルギーです。それこそがIPSモデルの掲げる「リカバリー志向」の支援スタイルなのだと思います。

現在あすなるを利用されているメンバーさ

んにも、その人それぞれの「希望」のカタチがあります。今後あすなるは、皆さんが「希望」を大いに語り、描き、安心してチャレンジできる場でありたいと思います。(畠木)

働く事で得られる体験を共に感じながら、

継続的な支援を目指したい！

IPSモデルでの就労支援は強みや得意な事などを重要視する事、決めるのは本人だが、困っている事や不安、上手く行かなかった事を受け入れないというわけではない事を改めて学びました。特に印象的だったのが株式会社NPSキングコング(沖縄)での取り組みでした。就労継続支援B型では漁業をしているそうで、メンバーには賃金としてお金ではなく捕れた海産物を持ち帰ってもらうなどユニークなアイデアを取り入れていました。「雇用する」「雇用される」という双方向の関係性ではなく、「共に働く」という同じ方向を向いた関係性が大切だという事でした。

また、実際に就労した方の話を聞く事ができ、就労までの気持ちや支援、現在の仕事内容や職場の人の関係性について聞かせて頂きました。支援者との関係がとても良い事が伝わってきました。仕事に就くまでが支援ではなく、働くことで得られる体験や仲間、そこから見えてくる目標を本人が見つけ、就労後も継続的に支援

していく事が大切だと改めて学びました。

(丸橋)

一人一人に寄り添い、

個性を活かせる支援がしたい！

様々な事例を通じ、IPSの大切さを感じました。IPSは、誰もが利用できるということ。人を信じ可能性を信じるプログラムであること。本人の希望を応援することに魅力があるように思います。個人によって働きたいという思いやきっかけは異なり、社会に認められたい、自分の可能性・特技を活かしたい、仕事をする事で生活のハリが欲しい等といった様々な思いがあります。働きたいと語られた時点で迅速な就労支援ができるIPSにおいて、個別の対応や関わり的重要性がより理解できました。私は、「やってみよう」「やりたい」という気持ちが一番に共に考え、共に悩み、共に歩んでいく姿勢を持って、日々の個別の関わりを大切にしていきます。(田中)

「働きたい」人への迅速な就労支援は

自然な事。その為に頑張りたい！

全体を通して改めて感じたことは、「IPSの考え方は、障がいの有無に関係なく『働きたい』を形にできるのでは」ということでした。障がいの有無やIPSの概念とは関係なく、

「働きたい」と思うことや、「働きたい」と思ったら行動にうつすこと、職場の中で徐々に学んでいくことは、自然な流れだと感じました。病気や障がいがありながら働くことを可能にするために、IPSの概念を理解したスタッフの迅速で柔軟な対応や、ストレングス視点、個別性が大切だと確認することができました。

(佐藤)

どこにいても「働きたい」という希望を応援して

もらえるよう、IPSが広がるといいな

基調講演で住吉病院院長の中谷真樹さんが、リカバリーとは社会的に普通の人になり、他者から認められることではなく、あくまで自分の中にある“夢”、“ワクワク”や“キラキラ”にもう一度アクセスしてみることだと話されたのを聞き、IPSを取り組む上での定義のひとつである『本人の好みが他の何においても尊重される』うことの大切さを改めて理解し、本人の好みを尊重することでワクワクやキラキラもより広がり、「働く」ことに向かいやすく、また働きやすくなる事が体験談の中で確認することができました。

「働けるかどうかなんて誰にも予測できない。なのに働きたいと思っている人に働けないのではないかと伝える根拠なんてないのではないか」と中谷さんは言われ、「働きたい！」と思ったときに「働こう！」と迅速に一緒に動ける相手との

関係づくり、環境づくりが私たちには求められているのだと感じました。

基調講演の冒頭で『歴史より未来は長い』と話されました。IPSの日本での取り組みはまだまだ歴史が浅く、これからの未来のほうがずっと長いのです。私がこの仕事を目指すきっかけは、生きているからこそ悩み、考え、想う、当たり前の部分に寄り添いたい、何か一緒にやっていきたいと思ったことからです。リカバリーを目的としたIPSの取り組みがもっと広がり、チャンスはどこにでもあつて、どこに行っても、どこで過ごしていても、希望に寄り添いながら、「働いてみようよ☆」と声をかけられる人とのつながりや環境がたくさんできたらいいなと思いました。(峰政)



あすなろスタッフです。
「希望」をもって
頑張ります！！



祝！なんとぱる通信
が発行 200 号！これ
からも頑張ります☆

『勢い込んで創刊二〇〇号』

やったぜ、ぱる通信
二〇〇号を達成した
皆の数智(すうち)を集め
一部一部丹念に
こさえた
メンバーが投稿した
職員が編集した
そしてやっとたどり着いた
二〇〇号
みんな一万号目指して
がんばろう
ぱる通信は不滅だ
やるぞ一万号
皆の数智を集めて
みんなに喜んでもらう
ぱる通信



2014
6.28.

投稿コーナー



星のざわめく夜に
光り輝く一番星
銀河の集まりに
流れゆく星
言葉には
表現出来にくい
神秘的な光景に
誰もが心奪われて
見惚れゆく
歳億万年の彼方より
輝いては
人を導いていた
今となっては
失われた感動を
今一度甦らせて
星空を見上げてみよう

天の川(星の囁き)

岩谷

被害者は私なのに...

みらいよう子



感想・投稿 募集中!

詩、俳句、絵、ジャンル不問
です。郵便、メールfax 等でご
投稿 下さい♪待ってます★

古楽日和

こがくびより

藤井健喜

資本主義における私企業の目的はただひとつ。利潤の獲得である。これは一見、当たり前のことのように思える。しかし裏を返せば、利潤(儲け)を獲得できなければおしまいだ、ということでもある。

儲けがなくなった企業(会社)は倒産する。だからその倒産を避けるため、企業はあらゆる努力をする。売れる商品やサービスを開発し、それを販売する。そして逆に売れない商品やサービスはやめてゆく。

筆者は、ぱるに来るのにバスを利用している。だが自宅近所のバス停から天満屋まで出てくるためのバスの便数はきわめて少ない。利用者が少ないためだろうとは思うが、なんとも不便だ。公共交通機関といえども、バスにしたところで私企業である。儲けがなくなれば倒産してしまふ。そうならないようにするためには、利潤の出る路線を多く確保し、逆に利潤の出ない、いわゆる赤字路線はどんどん縮小、廃止してゆかない。

だが先述したように、バスは公共交通機関だ。これを生活の足としている高齢者は多い。そうした生活の足が、利潤が出ないからといって廃止にでもなれば、こういった人たちの生活に悪影響を及ぼすことになる。

企業はたしかに利潤を獲得することも重要なうが、それ以上に企業には、わたしたち市民の生活を支えるという重大な社会的責任があるのだということを、肝に銘じてもらいたいものだと思う。



「あすなろ家族の会」総会開催！

六月二一日(土)総会を開催しました。一八名のご家族が集まり、昨年度の報告、今年度の計画を話し合いました。今年は七月二六日に行われる宇野盆踊り大会に家族から出店を出すこと、秋に日帰り温泉旅行に行くことが、新たに決まりました。役員は昨年度に引き続き小森清子会長をはじめ五名で今年も盛り上げていくことになりました。

総会後はグループに分かれての交流会を開き、日々の思いや悩みを語り合えた有意義な時間となりました。次回の交流会は八月一六日(土)です。ご参加下さい、



男の料理教室！

六月一日(金)「男の料理教室」と題して、朝市で仕入れたカツオ一尾を皆でさばきました。

「魚を自分でさばけるようになりたい!」「魚をさばくのは初めてで緊張するけど、やってみたい!」という方々が参加されました。はじめは不安だったけれど、吉田シェフに丁寧に教えてもらいながら上手くさばけました♪最後はお刺身ランチとしてみんなで美味しくいただきました。



六月一三日(金)に両備ボウルでボウリング大会を行い二八名の参加がありました♪選手宣誓から始まり、六レーンに分かれてスタート!男性も女性もストライクやスペア続出!出ると同じレーンのみんなでハイタッチをして楽しくプレーをしました。

男女別で一、二、三、五、七、九位、ガーター賞に賞品があり、最後までみなで楽しめたと思います。来年はもっと仕事をしたい人にも参加してもらおう、なるべく早くイベント情報を流すよう心掛けたいと思っています。バタバタする事もありましたが、成功して良かったです。そして実行委員さん最後までお疲れさまでした。



ボウリング大会開催!

座学からコンニチワ

ジョブサポートセンター
Job Support Center Asunaro あすなろの就労プログラム

■本気ラジオ体操♪■

皆さんご存知、日本の愛すべき国民的体操「ラジオ体操」を本気でやってみよう!という健康講座を開講しました。ラジオ体操を正しくやると、筋トレになりますし、運動量が思った以上にあるのです!本気でやると次の日に筋肉痛になるくらいです!呼吸を意識して行えば立派な有酸素運動!

さあ皆さんと一緒にラジオ体操で健康ダイエット!



キャンプ告知!

8月5(火)・6(水)弥高山キャンプ場
BBQ、山散策、キャンプファイヤーetc
楽しいイベント盛りだくさん!

参加費は 6500 円を考えてます☆

座学への参加には「ジョブサポートセンターあすなろ」の登録が必要になります。
お問合せは 086-270-2237 まで

INFORMATION

7月の予定

※5月よりぱるの開所は火曜～土曜 10時～16時
になりました。
※日程が変更になることもありますのでご確
認ください。

7月		
7	月	健康講座「体育館でスポーツ」13時～
8	火	パソコン講座 10時～ 陶芸 13時～15時 木下サーカス 12時集合
9	水	ぱるカフェ 10時半～ SST10時～ 座談会 13時半～
10	木	WRAP10時～11時半
11	金	男の料理教室 10時～ 絵画サークル 13時～ ソフトボール 15時～
12	土	鉄ちゃんサークル 13時～
13	日	カラオケサークル 10時～12時
14	月	健康講座「ジムで運動」13時～
15	火	パソコン講座 10時～ 陶芸 13時～15時 女子会 14時～15時半
16	水	卓球サークル 10時～11時 つどい 11時～ 手芸サークル 13時半～
17	木	
18	金	ソフトボール 15時～
19	土	お抹茶教室 14時～15時
20	日	
21	月	
22	火	パソコン講座 10時～ 陶芸 13時～15時
23	水	ぱるランチ 10時～ SST10時～
24	木	ピアサポーター養成講座
25	金	手芸サークル 10時～ 絵画サークル 13時～ ソフトボール 15時～
26	土	宇野学区盆踊り
27	日	
28	月	健康講座「ハイキング」13時～
29	火	パソコン講座 10時～ 陶芸 13時～15時
30	水	
31	木	ピアサポーター養成講座
8月		
1	金	ソフトボール 15時～
2	土	
3	日	
4	月	健康講座「ハイキング」13時～
5	火	パソコン講座 10時～ 陶芸 13時～15時

- 発行：社会福祉法人あすなろ福祉会
- 〒703-8256 岡山市中区浜475-5
- 編集：ぱる・おかやま
- TEL:086-270-3322 FAX:086-273-9692
- E-mail:pal-oka@mx35.tiki.ne.jp

9日(水)

ぱるカフェ

お茶を飲みながら、ぱるメンバーと語り合いましょ
う

時 間 10:30～
場 所 ぱる・おかやま 2階

15日(火) おしゃべり大好き女子集まれ!

女子会♪

毎月1回、楽しい雰囲気の中、テーマを決めて
女子トークに花を咲かせています。

時 間 14:00～
場 所 ぱる・おかやま 2階

8日・15日・22日・29日(火)

陶芸教室

土を触ると癒されますよ。基礎からご指導します。
独創的な自分の作品を作りましょう。

時 間 13:30～
場 所 ぱる・おかやま 1階

26日(金)

第16回宇野盆踊り大会

みんなで一緒に楽しみましょ♪
ぱるでも出店を出店予定です(*^^*)ノ

時 間 17:00～20:30
場 所 宇野小学校グラウンド

※雨天の場合は中止です。

『ぱるスペースMOMO』営業お休みのお知らせ

現在、『ぱるスペースMOMO』は、店内整備の為、お店の
営業をお休みさせて頂いています。お店の再開が決まり次
第、皆様にお知らせさせて頂きます。どうぞよろしくお願い
致します。 MOMOスタッフ一同

<7月のピア電話相談日>

ピア電話相談とは

同じような病気の経
験をしたピアサポーター
グループクローバー
が、お電話であなた
のお悩みをお聞きし
ています^^

(086)
270-3325

お気軽におかけ下さい!

	火	水	木	金	土
	8	9	10	11	12
AM	×	×	×	×	○
PM	○	○	○	○	○
	15	16	17	18	19
AM	×	×	×	×	○
PM	○	○	○	○	○
	22	23	24	25	26
AM	×	×	×	×	×
PM	○	○	×	○	×
	29	30	31		
AM	○	○	×		
PM	×	○	×		